

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	MSH医療専門学校
設置者名	学校法人MSH医療学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のあ る教員等によ る授業科目の 単位数又は授 業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配 置 困 難
医療専門課程	柔道整復師・スポ ーツトレーナー 学科	夜・ 通信	30 単位	9 単位	
教育・社会福祉課 程	こども学科	夜・ 通信	12 単位	9 単位	
(備考) こども学科は、令和7年4月1日 募集停止					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校職員室にて閲覧希望者全員に公開

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	MSH医療専門学校
設置者名	学校法人MSH医療学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校職員室にて閲覧希望者全員に公開

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元公務員職員	令和5年4月1日～令和8年3月31日	広報全般に関する事
非常勤	会社役員	令和7年6月10日～令和8年3月31日	法人経営全般に関する事
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	MSH医療専門学校
設置者名	学校法人MSH医療学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・授業計画書（シラバス）の作成過程 教員会議にて協議した上で作成。 また、必要に応じて当該授業科目担当教員の意見を取り入れる。 ・授業計画書の作成・公表時期 3月中下旬に作成し、事業年度のオリエンテーション時または開講時に公表する。	
授業計画書の公表方法	学生に対する授業計画書（シラバス）の配布及び学校職員室にて閲覧希望者全員に公開
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ・単位授与、履修認定の実施状況 授業計画（シラバス）に記載した成績評価の方法や基準のとおり、定期試験やレポートなどで学業成果の評価を行っている。この評価に基づき単位授与を行っている。具体的な基準はつぎのとおり。 ① 定期試験の受験資格 講義・演習科目については授業時間数の3分の2以上、実習科目については5分の4以上の出席 ② 定期試験の種類 各科目ごとに中間試験、期末試験、または小テストを実施する。 ③ 各試験の成績により評価します。100点満点で60点以上の評価を得たときに単位が認定されます。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価においては、各科目における学期末評価をもとに学年末に「優・良・可・不可」の4段階で評価され、60点以上（優・良・可）をもって単位を認定する。 平均点の算出方法 当該学年で開講された授業科目の成績評価を100点満点に換算し、取得した点数の平均を求める。 その平均点を指標とし、算出した平均点により成績分布状況を把握している。 学生の成績分布状況の確認方法 学年末に成績表と成績分布表を郵送により配布する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学校職員室にて閲覧希望者全員に公開
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 ① 協調性とコミュニケーション能力を備え他職種と連携をとり地域医療・福祉・幼児教育（保育）に貢献することができるようになる。 ② 豊かな人間力や他者への思いやりの心と人によりそう豊かな感性を持ち、その思いを医療・福祉・幼児教育（保育）への力に変えることができるようになる。 ③ 各授業科目の単位修得に必要な出席要件および成績要件の双方を満たし、学科ごとに定める科目の単位を全て修得すること。 ・卒業認定に関する方針の適切な実施状況 卒業の認定に必要な条件を満たしたことを、成績判定会議において審議する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学生に配布する学生便覧に掲載して公表、また学校職員室にて閲覧希望者全員に公開

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	MSH医療専門学校
設置者名	学校法人MSH医療学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校職員室にて閲覧希望者全員に公開
収支計算書又は損益計算書	学校職員室にて閲覧希望者全員に公開
財産目録	学校職員室にて閲覧希望者全員に公開
事業報告書	学校職員室にて閲覧希望者全員に公開
監事による監査報告（書）	学校職員室にて閲覧希望者全員に公開

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	柔道整復師・スポーツトレーナー学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	148 単位時間／単位	91 単位時 間/単位	34 単位時 間/単位	4 単位時 間/単位	単位時間 /単位	19 単位時 間/単位
			148 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		44 人	0 人	7 人	12 人	19 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・授業方法及び内容 講義、演習、実技および実習。 科学的思考の基盤・人間と生活、人体の構造と機能、疾病と傷害、柔道整復術の適応、保健医療福祉と柔道整復の理念、社会保障制度、基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 ・授業計画の作成・公表時期 3月中、下旬までに作成し、開始年度オリエンテーション時、または開講時に公表。
成績評価の基準・方法
（概要） ① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の4段階で評価する。 ② 中間・期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。
卒業・進級の認定基準

(概要) ① 協調性とコミュニケーション能力を備え他職種と連携をとり地域医療・福祉に貢献することができるようになる。 ② 豊かな人間力や他者への思いやりの心と人によりそう豊かな感性を持ち、その思いを医療・福祉への力に変えることができるようになる。 ③ 各授業科目の単位修得に必要な出席要件および成績要件の双方を満たし、学科で定める科目の単位を全て修得したことを成績判定会議において審議する。 ・進級の認定基準 配当年次に定める所定の単位全てを修得すること。ただし、未修得授業科目が3科目以内の場合は仮進級を認める。なお、単位の修得については成績判定会議において審議する。
学修支援等
(概要) 正規授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (90.9%)	1 人 (9.1%)
(主な就職、業界等) 柔道整復施術所、トレーニング施設、介護施設、その他業種			
(就職指導内容) 個別面談、就職説明会の開催、就職フェアの案内			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師（国家資格）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2024 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
54 人	5 人	9.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更（就職）		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任教員による個別面談及び保護者との面談、教職員で情報を共有し個々に応じてきめ細かな指導を行っている。		

①学科等の情報 ※こども学科は、R7年4月1日募集停止、3年生のみ在籍

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
教育・社会福祉分野		教育・社会福祉課程	こども学科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	138 単位時間／単位	32 単位時間／単位	単位時間／単位	6 単位時間／単位	単位時間／単位	4 単位時間／単位	
			42 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
30 人		8 人	0 人	1 人	3 人		4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 講義、実技および実習 「総合科目」と「専門教育科目」により保育者としての知識と技能を習得し、それらに裏打ちされた深い造詣と社会貢献への使命感を備えた人材を育成するカリキュラムを提供します。 ・授業計画の作成・公表時期 3月中、下旬までに作成し、開始年度オリエンテーション時、または開講時に公表。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ① 講義科目ごとに2/3以上の出席率及び実習については4/5以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の4段階で評価する。 ② 中間・期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・卒業の認定基準 ① 協調性とコミュニケーション能力を備え他職種と連携をとり地域福祉・幼児教育（保育）に貢献することができるようになる。 ② 豊かな人間力や他者への思いやりの心と人によりそう豊かな感性を持ち、その思いを福祉・幼児教育（保育）への力に変えることができるようになる。 ③ 各授業科目の単位修得に必要な出席要件および成績要件の双方を満たし、学科で定める科目の単位を全て修得したことを成績判定会議において審議する。 ・進級の認定基準 配当年次に定める所定の単位全てを修得すること。ただし、未修得授業科目が3科目以内の場合は仮進級を認める。なお、単位の修得については成績判定会議において審議する。	

学修支援等
(概要)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）) 保育士、幼稚園教諭 2 種			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2024 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任教員による個別面談及び保護者との面談、教職員で情報を共有し個々に応じて きめ細かな指導を行っている。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
柔道整復 師・スポ ーツトレ ナー学科	0 円	1,000,000 円	240,000 円	(実習費、学友会費)
こども学 科	0 円	600,000 円	440,000 円	(実習費、学友会費)
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校職員室にて閲覧希望者全員に公開		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 学校関係者として、関係企業、卒業生などを含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育内容、学校運営等について評価を行っている。評価内容は理事会、運営委員会、教育内容検討会などで報告を行い、次年度以降の改善に取り組む。 評価委員は関係する業界団体や卒業生等から理事長が選任する。 学校関係者評価 委員定数 3 名		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
整骨院勤務	令和 7 年 4 月 1 日～ 令和 12 年 3 月 31 日	企業（卒業生）
トレーニング施設勤務	令和 7 年 4 月 1 日～ 令和 12 年 3 月 31 日	企業（卒業生）
他校専門学校勤務	令和 7 年 4 月 1 日～ 令和 12 年 3 月 31 日	業界団体
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校職員室にて閲覧希望者全員に公開		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校職員室にて閲覧希望者全員に公開
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H134310000327
学校名（〇〇大学 等）	M S H医療専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人M S H医療学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		11人	－	11人
内 訳	第Ⅰ区分	－	－	
	（うち多子世帯）			
	第Ⅱ区分	－	－	
	（うち多子世帯）			
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）			
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）			
家計急変による 支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				11人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。